

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果

表1 平成27年度 平均正答率一覧

小学校6年	平均正答率		
	町平均	国平均	国との差
国語A	69.7	70.0	-0.3
国語B	63.7	65.4	-1.7
算数A	75.3	75.2	0.1
算数B	43.7	45.0	-1.3
理科	60.9	60.8	0.1

中学3年生	平均正答率		
	町平均	国平均	国との差
国語A	73.0	75.8	-2.8
国語B	60.9	65.8	-4.9
算数A	61.9	64.4	-2.5
算数B	38.4	41.6	-3.2
理科	51.1	53.0	-1.9

※A・Bの意味

A 主として知識を問う問題
B 主として活用を問う問題

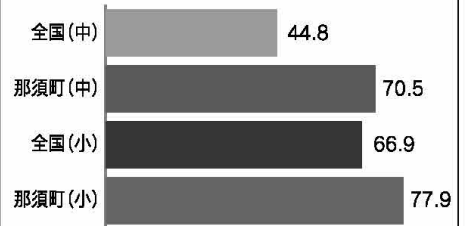
平成27年度の「全国学力・学習状況調査」の町内小・中学校の結果についてお知らせします。

【学力調査から】
本町の児童生徒の学力は、全国平均と比較すると「同じ」か「やや低い」状況にあります。「やや低い」とは、いずれの領域においても、あと1問正解すれば国平均を超えるか、並ぶ状況です。今年度は、小学校の算数Aと理科が全国平均を超えました。活用力が問われるB問題については、小・中学校ともに全国平均を下回っており課題と言えます。本調査結果の綿密な分析を行い今後の指導に活かすとともに、思考力や表現力を高めるための授業改善や学校全体での取組みを着実に図っていく必要があります。(表1)

【質問紙調査から】
本町の児童生徒は、朝食を毎日食べ、早寝早起きを心がけるなど、概ね規則正しい生活を送っています。この傾向は昨年度も見られました。家で計画を立てて勉強する、宿題や予・復習をしているといった、家庭での学習に関する項目が全国値を上回りました。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」といった項目では全国値を大幅に上回っています。「那須町版コミュニティスクール」の取組みも2年目を迎え、さまざまな特色ある活動が行われています。自分たちの住む地域に関心をもち、地域とともに学ぶ本町の児童生徒の姿が見受けられます。(グラフ1)

グラフ1

今住んでいる地域の行事に参加していますか。



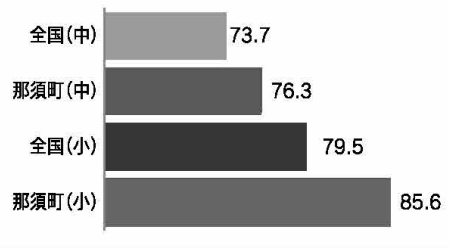
【クロス集計から】

「クロス集計」とは、2つの質問項目に注目して同時に集計し、相互の関係を明らかにするための集計方法です。

携帯電話やスマートフォンを持つていない児童生徒は、小学生で約60%、中学生で約40%となっています。詳しく分析すると、小中学校ともに携帯電話やスマートフォンの所持、利用時間と学力の定着に差が見られることがわかりました。4領域全てにおいて、携帯電話やスマートフォンを持つていない児童生徒の正答率が高い結果となりました。本町では、3月にPTA連絡協議会、小中学校長会、町教育委員会から、那須町の子どもの健全な育成のために「小・中学生にスマホ・ケータイを持たせたくありません」というリーフレットが出されています。

グラフ2

家の人と学校での出来事について話しをしますか。



本調査からも学力の定着と非常に関係が深いことが明らかになりました。改めて、携帯電話やスマートフォン利用、所持について家庭で考えていただければと思います。

「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話しをしますか」という質問項目において、肯定的な回答をした割合が小学校では約86%、中学校では約76%で、ともに全国値を上回っています。また、話しをしている児童生徒ほど正答率が高いという結果が出ています。ご家庭での会話自体も大きな意味を持ちますが、同じぐらいにご家庭での会話を通して、お子さんたちに安心感を与えて、ご家庭でお子さんの学校生活に関心を持って見守っていただければと思います。(グラフ2)